

1. 科目名 (単位数)	図画工作 I (幼) (2 単位)		3. 科目番号	SJMP1141								
2. 授業担当教員	武本 大志											
4. 授業形態	実技、講義		5. 開講学期	春期/秋期								
6. 履修条件・ 他科目との関係												
7. 講義概要	<p>実技や講義を主体とし、造形表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形に関わる基本的な知識や技能を習得し、子どもたちの創造性豊かな表現活動を支えるための基礎的な力を身につけていくことを目的とする。</p> <p>制作実践を踏まえ、自身の造形表現の経験を豊かなものにしていくとともに、保育者・指導者として子どもの造形活動にどのように関わっていくかを考え、幼児期の造形の特徴や教育的意義への理解を深めていく。その中で表現の面白さを実感し、自分らしさと向き合い、自身の感性と創造性を育む。</p>											
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 技術的な「上手・下手」にとらわれず、ものづくりの楽しさや表現することの喜びを体験する。 2. 様々な作品に触れ、子どもたちの生き生きとした表現に共感できる感性を養う。 3. 子どもの発達段階における造形の特徴を理解し、場面に応じた援助の在り方について学ぶ。 4. 素材体験や題材研究を行い、保育者・指導者として不可欠な基礎的造形力を身につける。 5. 子どもが自発的に造形活動を楽しむような場づくりについて、保育者・指導者の立場から考察する。 											
9. アサイメント (宿題) 及びレポ ート課題	<ol style="list-style-type: none"> i. 毎時の授業において制作する作品を提出課題とする。 ii. 制作・鑑賞に関わるレポートの作成と発表を行う。 iii. 自己の振り返りとして、授業における取り組みをスケッチブックにまとめることを課題とする。 <p>以上、詳細についてはオリエンテーションの際に説明する。</p>											
10. 教科書・参考書・ 教材	<p>【教科書】【参考書】 授業の進行に伴い適宜資料を配布する。その他、必要に応じて参考となる図書を授業時に紹介する。</p> <p>【教材】 制作道具・材料についてはオリエンテーション時に指示する。各自忘れずに準備をして授業に臨むこと。</p>											
11. 成績評価の規準 と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの表現に寄り添った造形活動の在り方について考える力がついたか。(学習目標 1・2) 2. 子どもの造形表現の特徴に関する基礎的な知識が身につけられたか。(学習目標 3・4) 3. 子どもの造形活動を支える上で不可欠な基礎的造形力、技能が身につけられたか。(学習目標 5) <p>○評定の方法 授業への取り組み、制作や鑑賞活動の成果、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 授業への積極的参加</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> <tr> <td>2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)</td> <td>総合点の 30%</td> </tr> <tr> <td>4. 課題 (作品発表、レポート等)</td> <td>総合点の 20%</td> </tr> </table>				1. 授業への積極的参加	総合点の 20%	2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%	3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%	4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%
1. 授業への積極的参加	総合点の 20%											
2. 日常の学習状況及び自己課題への取り組み	総合点の 30%											
3. 制作や鑑賞活動の成果 (ポートフォリオ等)	総合点の 30%											
4. 課題 (作品発表、レポート等)	総合点の 20%											
12. 受講生への メッセージ	<ol style="list-style-type: none"> ①指導者の資格を得るという自覚を持ち、積極的に授業に参加すること。 ②実技を主とした授業展開のため欠席すると授業についてこれられない可能性があります。やむを得ない理由がない限り休まないこと。 ③使用する道具や自分の作品を大切にすること。 ④多くの体験を積み、広い視野を持つこと。 <p>以上のことを意識し、自身のために有意義な時間にしてください。</p>											
13. オフィスアワー	授業前後の空き時間等 (研究室の前に時間割表を掲示)											
14. 授業展開及び授業内容												
講義日程	授業内容		学習課題									
第 1 回	◇ オリエンテーション 授業に関する諸注意 造形表現の構造・発想について		事前学習	中学校・高等学校において使用していた美術の教科書を見返し、好きな作家・作品について調べる。その際に、作品を好きだと感じる理由についても考える。								
			事後学習	造形発想に関するグループでの制作活動を振り返り、考えたこと感じたことを配布プリントにまとめる。								
第 2 回	◇ 色彩の基礎 色のイメージと組み合わせについて		事前学習	これまでの描画経験を振り返り、自分の表現と色について考える。「色の特徴」について考え、表現するための工夫を書き出す。								
			事後学習	学んだ色の構造について振り返り、各色のイメージとその組み合わせからできた作品をスケッチブックにまとめる。								
第 3 回	◇ モダンテクニックによる表現 I (デカルコマニー・フィンガーペインティング)		事前学習	絵の具を用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、自分らしい色彩について考え、構想をまとめる。								
			事後学習	デカルコマニーとフィンガーペインティングによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた美術作品について調べる。								

第4回	◇ モダンテクニックによる表現 II (にじみ絵・パチック)	事前学習	クレヨンを用いた制作活動の経験を振り返り、印象深かった作品を書き出す。作品制作に向けて、クレヨンで簡潔に輪郭を描くことができるようなモチーフの資料を収集する。
		事後学習	にじみ絵とパチックによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。
第5回	◇ モダンテクニックによる表現 III (スクラッチ・スパッタリング)	事前学習	筆を用いない描画の経験を振り返り、活動の内容を書き出す。作品制作に向けて、幻想的な表現による画面をイメージし、構想を練る。
		事後学習	スクラッチとスパッタリングによる制作活動を振り返り、技法と表現の関係について考える。作品をスケッチブックにまとめる。
第6回	◇ モダンテクニックによる表現 IV (ドリップング・スタンピング)	事前学習	筆を用いない描画の特性について考える。作品制作に向けて、身の回りにある自然物の有機的な形態に着目し、構想を練る。
		事後学習	ドリップングとスタンピングによる制作活動を振り返り、子どもの造形活動における見立ての重要性について考えたこと・感じたことをプリントにまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。
第7回	◇ モダンテクニックによる表現 V (フロッタージュ・コラージュ)	事前学習	フロッタージュとコラージュという技法について調べ、作品の構想を練りながら、制作に使用できそうな材料を収集する。
		事後学習	フロッタージュとコラージュによる制作活動を振り返り、同様の技法が用いられた絵本作品について調べる。作品をスケッチブックにまとめる。
第8回	◇ 紙工作 I 折り紙・色画用紙を用いた壁面装飾の基礎	事前学習	保育現場における壁面装飾について調査し、季節ごとの実例をスケッチする。
		事後学習	切り紙の折り方について復習する。10折り・12折り用のオリジナル型紙のアイデアを描き出し、出来上りのイメージとともに記録する。作品をスケッチブックにまとめる。
第9回	◇ 紙工作 II 紙の折り目を利用した立体表現	事前学習	A4 ケント紙を用いてバースデーカードを制作する時、どのような工夫ができるか考え、アイデアを書き出す。
		事後学習	ポップアップカードの制作活動を振り返り、実際に制作した作品以外に、どのような形で応用できるかを考え、アイデアを書き留める。作品をスケッチブックにまとめる。
第10回	◇ 素材についての研究 触感を刺激する造形素材の展開	事前学習	スライムを作るにあたって、その方法や材料について調べる。また、実際に作るにあたっての安全面の考慮や制作方法についてまとめる。
		事後学習	触感を刺激する教材の活用方法や意義について振り返りシートにまとめる。プリントにまとめる。作品をスケッチブックにまとめる。
第11回	◇ 表現への寄り添い 子どもの描く絵から感じとれること	事前学習	保育現場や子どもの絵が飾られる場に着目し、子どもの描く絵について調査する。
		事後学習	子どもの描画表現の特性と発達についてプリントにまとめる。実際に展示されている現場において子どもの絵を鑑賞する。
第12回	◇ ダンボール制作 I 制作の準備・構想と下書き	事前学習	ダンボールでの造形遊びにどのようなものがあるか調べて、制作のイメージを広げる。
		事後学習	実際に制作する造形物についての制作方法やデザイン案をスケッチブックにまとめる。
第13回	◇ ダンボール制作 II 技法の工夫・彩色・組み立て	事前学習	制作する題材をグループで話し合い、必要な材料や資料を各グループで用意しておく。
		事後学習	完成に向けて改善点や手順などをスケッチブックにまとめる。

第14回	◇ ダンボール制作Ⅲ 仕上げと発表準備	事前学習	現場における実践の事例を調べ、完成のイメージを明確にする。
		事後学習	グループでの制作活動を振り返り、個人制作との違いについて考え、プリントにまとめる。
第15回	◇ ダンボール制作Ⅳ 発表と講評、制作のまとめ	事前学習	作品発表に向けての準備をする。グループ内で制作のポイントについてまとめて発表に備える。
		事後学習	図画工作Ⅰでの自身の制作活動を振り返りながら、自分の造形表現の個性について考える。スケッチブック提出に向けて、作品やプリントをまとめる。